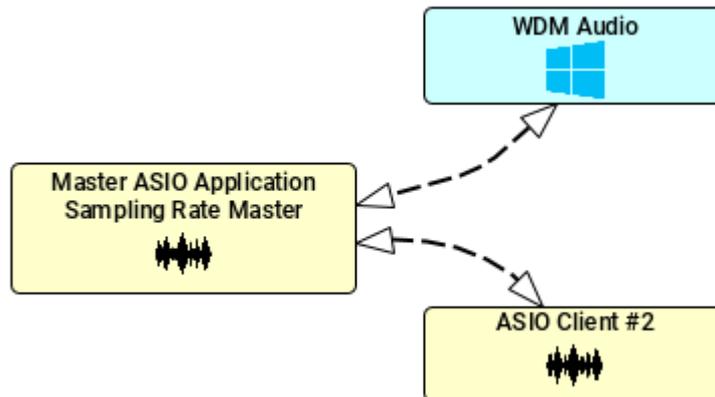




# MAD: How to use the different MAD Bridges



## ASIOアプリケーション間のMADブリッジチャンネル

### 1. MADパネルでブリッジチャンネルを設定する

[MergingAudio Device] パネルを開き、必要な数のブリッジチャンネルを設定します（サンプリングレートによってチャンネル数が異なります）。

Channel Settings		44.1/48k	88.2/96k	176.4/192k	352.8/384k/DSD
Inputs:	128	128	64	32	16
Outputs:	128	128	64	32	16
Bridge channels:	16	16	8	4	2

設定したすべてのブリッジチャンネルは、使用しなくてもCPUを使用します。そのため、必要なチャンネル数のみを設定してください。

マスターASIOホストに関する注意：サンプリングレートマスターとなるマスターASIOホストを設定することもできます。

MADパネルからサンプリングレートを設定したい場合は、マスターASIOホストをMerging Audio Device に設定します。

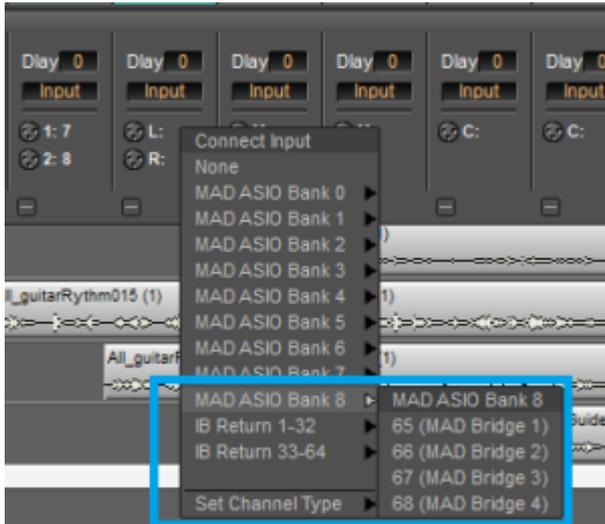
### 2. ASIO DAWのセットアップ

この例では、オーディオをReaperからPyramixにルーティングしますが、同じ手順がすべてのASIO DAWに適用されます。

プライマリASIO DAW (Pyramix) を起動し、プロジェクトを作成/開きます。

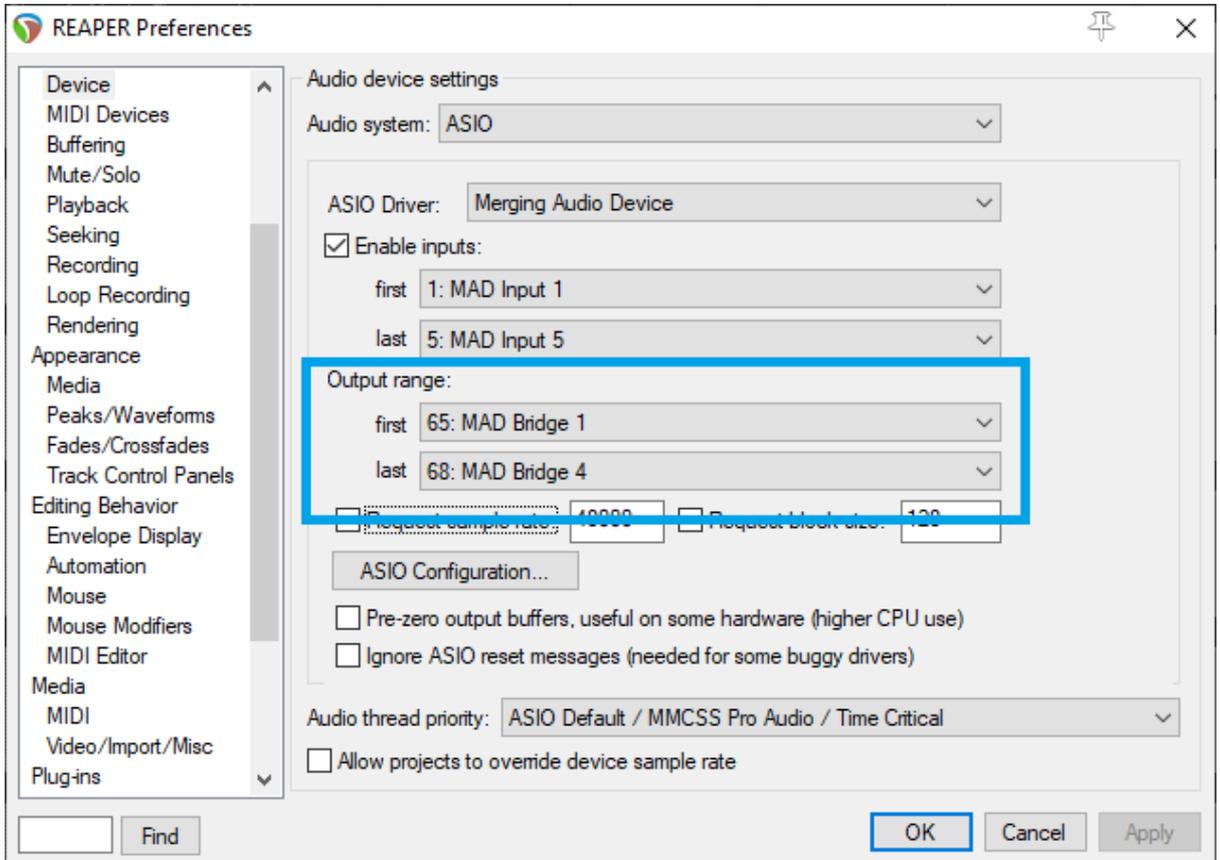
セカンダリASIOホストから必要なチャンネル数に応じて、ストリップを追加します。

必要なMADブリッジ入力を選択します（そして「ブリッジ」ストリップをRec Ready / Inputに設定してモニターします）



次に、セカンダリASIO DAWを起動します。出力がMAD Bridge出力にルーティングされるように設定します。

Reaperの例を参照してください。



プライマリASIO DAWからセカンダリにオーディオを送信することもできますが、フィードバックを避けるためにルーティングに注意してください。

## ASIOアプリケーションとWDMアプリケーション間のMADブリッジチャネル



1. Merging Audio Device パネルを開き、必要なブリッジチャンネル数を設定します（サンプリングレートによって異なります）。上記のステップ1を参照してください。
2. WDM Settings セクションで、出力をBridge チャンネル（この例では1-2） マップします。

**WDM Settings**

Enable WDM

Inputs: 2

Inputs map: Input 1-2

Outputs: 2

Outputs map: Bridge Channel 1-2

3. プライマリASIO DAW（この例ではPyramix）を起動し、プロジェクトを作成/開きます。セカンダリASIOホストから必要なチャンネル数に応じて、ストリップを追加します。必要なMADブリッジ入力を選択します（そして「ブリッジ」ストリップをRec Ready / Inputに設定して監視します）
4. WDMアプリケーションを起動すると、Merging Audio Device がWindowsのデフォルトのサウンドデバイスとして設定されていると仮定して、オーディオがASIO DAWにルーティングされます。  
（WDMオーディオアプリケーションは、Merging Audio Device WDMを使用するように個別に構成することもできます。詳細については、[このページを参照してください](#)）

#### ノート：

- ループフィードバックを回避するために、アプリケーション間でMADブリッジ入力チャンネルと出力チャンネルの両方をルーティングする場合は特に注意してください。
- サンプリングレートを高くすると、チャンネル数が減少することに注意してください（MAD パネルチャンネル設定セクションのサンプリングレートごとのチャンネル数を参照してください）。
- WDMオーディオは現在DSDサンプリングレートでは利用できません
- 一部のWindowsオーディオアプリケーションは、192 Khz以上で実行できないか、ステレオを超えるマルチチャンネル出力と互換性がない場合があります。  
[詳細はこちらのページをご覧ください](#)